

自然体験イベント事故情報一覧表(2013年4月以降発生分)

公益社団法人 大阪自然環境保全協会

2014年9月1日現在

No.	事故名	事故状況	事故処置	総務部コメント	年齢		性別		発生				
					高齢	成人	子供	男性	女性	年月	場所	グループ	
1	転倒し、たんこぶをつくる	母のしている木のセミ羽化をみようとして急いだ本人が、父の近くから斜面をショートカットして走ったため、道の溝に足を踏み外し、前方に勢いよく転んで、左手掌に傷をつくり、右おでこに大きなたんこぶをつくった。	スタッフが、手は水であらって薬品で消毒、頭は氷(ペットボトル)で冷やし続け、その間、スタッフが電話番号を控えていた救急病院に母親自身が連絡を取った。その病院で脳のMRIを撮ることの出来る救急病院を紹介してもらい、さらに、そこに電話をして予約。羽化を少し見てから、家族で病院に向かった。翌朝電話で様子を聞いたが「もう大丈夫、通院は必要ない」とのこと。 (推定原因と再発防止策) 羽化をみているときでも、暗いので、移動するときは、足下を必ずしっかり見て歩く、絶対走らないこと、などを徹底させる。	左欄、推定原因と再発防止策に同じです。				○	○	2013年7月	公園	観察会	
2	間伐材が倒れ、右足親指骨折	間伐作業中古い切り株の上に右足をおいて作業中、間伐材が右足親指をかすめて倒れる。その際右足親指を骨折する。	作業中の同伴者が医師だったため 応急処置のあと 即救急開設の近くの外科へ車で搬入。専門家の応急処置を受けて帰宅。その後は自宅近くの病院で受診中。 (推定原因と再発防止策) 原因は猛暑。睡眠不足と熱さでとっさの判断が鈍る。夏は午後からの作業は中止するかも。	夏季の活動は熱中症などを考慮し、水分補給、休憩配分を十分にして、加えて午後からの作業中止など作業者の健康管理を優先しなければなりません。		○				2013年7月	里山	里山保全	
3	山の斜面で左足ふくらはぎ肉離れ	リースづくり用の蔓を採取のため、山の斜面を登っていたところ、左足のふくらはぎに痛みが走り、歩けなくなった。	スタッフの中に整骨医経験者がいたので、被災状況を診て付き添い下山・最寄の駅まで見送った。その後被災者が自宅近辺の病院に行き診断を受けた。 (推定原因と再発防止策) コメントなし		○					2013年12月	里山	観察会	
4	左腕上腕骨折と前歯1本欠ける	行事の打ち合わせに行く途中、駅のホームで電車に乗ろうとして走って足を滑らせて転倒し、左腕上腕を痛打、前歯1本が歯茎に陥没、1本が欠けた。	そのまま打合せ場所に行き、打合せを行い、帰りに歯科と整形外科へ行った。 (推定原因と再発防止策) コメントなし	急いで走ることのないように、余裕を持って出かけましょう。	○				○	2013年12月	駅ホーム	協力隊	
5	フィールドに取り残される	作業終了後に苗場が乱雑になっているのに気がつき一人で作業(残業)をした。作業が多くあり、施錠管理者の最終退場に合図するも気づかれず、ゲート・管理事務所が施錠されて取り残された。	携帯電話は持参していないがノートブックパソコンを持参していたので、関係者へ救出依頼をメール送信した。メールを受信したスタッフが関係者に連絡を取り、施錠管理者が現地へ戻り開錠し19時頃被災者を救出した。 (推定原因と再発防止策) 原因は、誰にも伝えずに一人で残業をした。後始末場所と被災者の車が管理事務所から見えない位置に駐車していた。対策は作業終了後の残業必要時は管理担当者に伝えること。	今回のケースは左欄の推定原因と再発防止策に同じです。一般的に参加者の確認は集合時、昼食時、解散時に行います。参加者が集団を離れる場合は黙って離れさせずにはいけません、必ずスタッフに声掛けを徹底させましょう。	○				○	2014年2月	里山	協力隊	
6	列車とホームの間に転落、頭部裂傷	自然観察会の帰り道に電車内の扉付近に立っており、扉について扉が開いたときに列車とホームの間に転落し、頭部に1cmの裂傷を負った。	ホームへ引き上げ、救急車で病院へ搬送、3針縫合。 (推定原因と再発防止策) 電車内では、幼児を扉近くに1人では立たせないようにする。	無事に帰宅するまでが行事の範囲です、解散時にこうした事故事例を紹介し注意を促しましょう。なお、保全協会が加入するボランティア保険は自宅と集合・解散場所までの往復経路の事故も対象になります。					○	○	2014年3月	駅ホーム	観察会
7	歩きスマホで川に転落	観察会下見時に、道路に隣接する川(約2m下)に転落した。	怪我はなく自力で道路に上がる。 (原因と再発防止策) 歩きスマホであった。道路にガードレールがなかった。道路に照明がなく道路と川の境目がわかりにくかった。歩きスマホは止める。ガードレールない箇所はスタッフが立ち合い注意喚起する。懐中電灯で足元を見る。	左欄、推定原因と再発防止策に同じです。	○					2014年6月	川	観察会	
8	指の付け根をハチに刺される	観察会で本人が低木の植え込みに近づいたところ、ハチに指の付け根付近を刺されたとの申し出があった。周辺をスタッフ全員で探し、キアシナガバチ?1頭を捕獲したが、巣は発見できず。本人以外は刺されたところを目撃していないため、事故時の詳しい様子ははっきりしない。	報告者が見たところ刺し傷ではなく切り傷のようにも見たが、本人の申し出どおり、刺された部位から体液を押し出し、流水で洗い、氷で冷やした。本人も痛みはあまりなかったためか、その後も観察会に参加し、変わりはない。終了時点でも本人から異常がある報告はなかった。後日確認の電話をしたところ、翌日少し腫れたが、すぐに収まったとの報告を受けた。 (推定原因と再発防止策) 原因は、ハチに気づかず、不用意に近づいたためと思われる。再発防止策としては、観察会の開始時にハチに不用意に近づかないこととの周知徹底を行う。また、ハチに刺された時の対処法について、スタッフ全員に周知する。	左欄、推定原因と再発防止策に同じです。ハチに刺された時の対症法は、リスクマネジメント研修会テキスト「危険生物(指導者版)著者:佐藤仁志氏」6ページを参照ください。次のとおりとなっています。①冷たい流水で患部を洗いだしながら毒を血液と一緒に絞り出す。この時専用の絞り器があると便利。②痛みや腫れは水や保冷剤で冷やす。③市販の抗ヒスタミン剤を含んだステロイド軟膏を塗る。④気分が悪くなったり息苦しくなった場合はショック症状の前兆の可能性が高い。すぐに病院に行き治療を受ける。	○				○	2014年6月	公園	観察会	